

筑波大学新聞

第312号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学 茨城県つくば市 天王台1-1-1

卒業生の自転車無料回収

整備し新入生に販売

筑波大学は今年から、卒業していく学生の自転車を回収・整備し、新入生などに1台5000円程度で販売していく。同大では毎年、卒業生らが放置した自転車が平均約1400台にのぼっており、ユニークな放置自転車対策として注目されそう。また同大は平成27年度にも、自転車・バイク登録制度を総合的に管理していくセンターを設置する予定で、これらの施策を通じ、開学以来続く自転車問題の抜本的解決を目指すという。(鈴木拓也 人文学類2年)

同大学生生活課による「学生などに呼びかけ、自転車を無料で回収。パンクしにくいタイヤに交換するなどの整備した上で、自転車マーク3を貼った上に提供してほしい」と呼びかけている。

一方で、新たな設置が予定される自転車・バイク登録の総合管理センター「ICycleセンター」(仮称)では、ICタグの配布や放置自転車のチェックなどの他、今回開始が決まった卒業生の自転車のリサイクル活動も担当する。

TSマークII自転車安全整備士が点検整備した普通自転車に貼付されるマークで、貼付後の1年間は付帯保険がつく。青、赤の2種類があり、最大1000〜2000万円の保険が支払われる。

大学ラグビー選手権大会

3年連続の4強



早稲田大の守備を振り切りトライを狙う筑波大

【国立競技場で富田慎二(日本語・日本文化学類1年) 大学日本一を決める第50回全国大学ラグビー選手権大会の準決勝が1月2日、国立競技場(東京都新宿区)で行われた。筑波大学は5大会ぶりの頂点を目指す早稲田大学と対戦したが、11-29で惜しくも敗れ、2年連続の決勝進出はならなかった。筑波大は昨年12月に行われた第2ステージを3戦全勝で突破し、3年連続の4強入りを決めていた。(9面に関連記事)

2年連続の決勝進出を狙った筑波大だったが、日本代表の福岡賢樹(情報2年)に対する厳しいマークや、相次いで反則を取られたことで、スクラムから地道に攻撃を重ね、トライを決めるという本来のゲーム展開に持ち込めなかった。前半6分に山沢拓也(体育1年)が風下という厳しい条件にもかかわらずペナルティゴールを決めて先制する。10分には山下一司(3年)が主将の内田啓介(同4年)からのパスを受けてトライ。しかしその後、筑波大はゲームの流れをつかみきれずミスが相次ぎ、20

決勝進出ならず

分、早稲田大にトライを決められる。26分にはペナルティゴールで逆転を許し、8-10で前半を折り返した。

後半、筑波大はゴールライン目前に何度も迫り、スタンドからは筑波ゴールが沸き起った。だが、早稲田大のディフェンスを崩せずにいると、逆に28分にスクラムで押し切られトライを奪われた。31分には山沢がペナルティゴールを決め、11-15と早稲田大に4点差まで迫るが、34分にトライを許し、直後37分にもダメ押しトライを決められた。試合終了のアザーがた。一方、主将の内田は



試合後、悔しさを見せる選手たち

「昨年決勝で敗れた帝京大(体育系・准教授)は19月の対抗戦で早稲田大に負けているので対策は行ってきたが、うまく生かされず攻撃につなげる体制が作れなかった」と敗因を語った。一方、主将の内田は

わいせつ事件やまず

筑波大学周辺の街灯が整備されていない路上で深夜、女子大生を狙う路上わいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が急増している問題で、昨年12月に帰宅途中の筑波大生が、中年とみられる男に口をさされたり腹部をおさえられる事件が起きていたことが分かった。学生の悲鳴で男は逃走したという。一連の事件を受け、つくば中央署では防犯グッズの貸し出しなど、筑波大と協力して防犯対策を行うことを検討している。(本紙取材班3面に関連特集)

街灯ない場所で続く

同署への取材によると、事件が発生したのは12月4日午前2時ごろ。大学から徒歩で戻り、つくば市春日4丁目の自宅アパートに入ろうとした女子大生が突然、背後から来た男に口をさされらるなどした。金品の盗難など他の被害はなかった。被害者の証言などによ

警察、大学と防犯対策検討

現場近くのコンビニの防犯カメラが犯人の映像を一部、捉えていたが、その映像などから、男は女子学生の後をついていった可能性が高いという。同署ではこの映像解析を行い、男の割り出しを急いでいる。本紙で調べたところ、春日4丁目の事件発生現場は街灯が少なく、夜間の視界は30分程度だった。筑波

筑波大学学生生活課によると、同課はストーリーなどの相談に来た学生を対象に2010年ごろから学生に防犯グッズを提供している。グッズの中にはストッパーを外すと高音を発する電池式の防犯アザーや服などに簡単に巻きつけることができる蛍光塗料バンド、小型懐中電灯などがある。つくば中央署との連携について、同課は「有効な対策があれば、取り組んでいきたい」としている。



つくばに街灯を



大学が提供する防犯アザー(左下)などの防犯グッズ

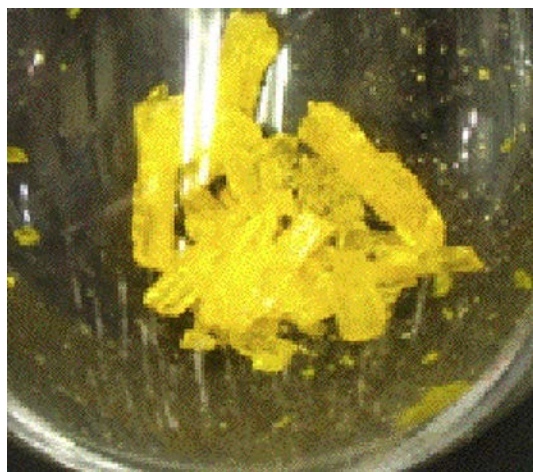
本紙で事件・事故取材を担当している。その中で昨年、筑波大学周辺で路上わいせつ事件が急増していることを報じた。街灯が整備されていない暗さを悪用し、女子大生に生涯忘れぬ辛い思いをさせる犯罪。一つ間違えば、重大事件に発展する可能性もある▼現場付近の道を実際に歩いた。やはり暗く街灯を建てほしい、警察にはパトロールを増やしてほしい、と切実に思った。幸い、記事には多くの反響があり、ある卒業生からは「自らも怖い思いをした」「キャンペーンを続けてほしい」との連絡があった▼記者としての手ごたえを感じたが、取材するうちに、別の感想を持ったのも事実だ。ある取材先は「筑波大生の防犯意識が低い」と話した。飲み会の後、深夜に一人で帰る学生。午前2時にジョギングを行う学生。実例を示しながら、その取材先は学生に自戒を求めた▼昨年、同様に多発したのは深夜に居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件だった。住民の学生たちは玄関のオートロックを過信して、自らの部屋の施錠を怠り、被害にあっていた▼自らの安全は他人に任せきりにせず、まずは、自分ができることを考える。そのことの重要性を痛感する。二人の社会人としての自立」。今年、故郷の成人式で聞いた言葉の意義を、考え続けている。

筑波おし

本紙で事件・事故取材を担当している。その中で昨年、筑波大学周辺で路上わいせつ事件が急増していることを報じた。街灯が整備されていない暗さを悪用し、女子大生に生涯忘れぬ辛い思いをさせる犯罪。一つ間違えば、重大事件に発展する可能性もある▼現場付近の道を実際に歩いた。やはり暗く街灯を建てほしい、警察にはパトロールを増やしてほしい、と切実に思った。幸い、記事には多くの反響があり、ある卒業生からは「自らも怖い思いをした」「キャンペーンを続けてほしい」との連絡があった▼記者としての手ごたえを感じたが、取材するうちに、別の感想を持ったのも事実だ。ある取材先は「筑波大生の防犯意識が低い」と話した。飲み会の後、深夜に一人で帰る学生。午前2時にジョギングを行う学生。実例を示しながら、その取材先は学生に自戒を求めた▼昨年、同様に多発したのは深夜に居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件だった。住民の学生たちは玄関のオートロックを過信して、自らの部屋の施錠を怠り、被害にあっていた▼自らの安全は他人に任せきりにせず、まずは、自分ができることを考える。そのことの重要性を痛感する。二人の社会人としての自立」。今年、故郷の成人式で聞いた言葉の意義を、考え続けている。

関口教授ら研究グループ

非金属の高性能電池を開発



ケイ素ラジカルの結晶

充電時間は60分の1以下に

関口教授(数物系)ら。ケイ素は豊富に存在する元素で、従来の充電電池に用いられる金属よりも入手が容易。ケイ素ラジカルを用いた電池では、高速での充電もできると期待されている。

同グループは、リチウムのような希少金属以外の物質を用いて充電電池が作れないか研究を開始。その結果、ケイ素と有機物を化学結合させた「ケイ素ラジカル」が最も充電に適していることが分かった。ケイ素ラジカル電池だと、充電に要する時間が従来の60分の1以下になるといふ。

同教授は「エネルギーを保存できる充電電池の開発は重要な研究であり、今後の発展にも期待したい」と話した。

21世紀末の気温・降水量を予測 東京は約3度上昇か

日比野研究員らの研究グループは、地球温暖化が進んだ場合、21世紀末の東京の気温が約3度上昇する可能性があることを発表した。独立行政法人海洋研究開発機構横浜研究所(横浜市金沢区)のスーパーコンピュータ「地球シミュレータ」を用いた予測結果で、人間の食生活や伝染病の拡大などに影響を与える可能性があるといふ。

同グループは世界約200の国や地域を対象に2075年〜99年の月別平均気温と降水量を予測。その結果、21世紀末の東京の気温は現在より約3度上昇し、中国浙江省の温州市のような気候になることが分かった。気温の上昇によって、熱中症やデング熱などの感染症のリスクが高まる。農作物の生育期間が短くなる。海水温の変動によって、魚の種類や漁獲量が変化する。など多岐にわたる影響が出る懸念がある。

東京以外の地域の気候も大きく変わる可能性がある。北欧アンマールの首都コペンハーゲンの気温は2.5度上昇してイタリア南部のような気候になり、イタリアの首都ローマの気温は3度上昇してアフリカ大陸のアルジェリア付近のような気候になるといふ。

今回、同研究グループは、今後の社会を、化石燃料と太陽光パネルなどの環境に優しい新技術を併用しながら経済発展を目指すものと想定。これを基にシミュレーションを行った。

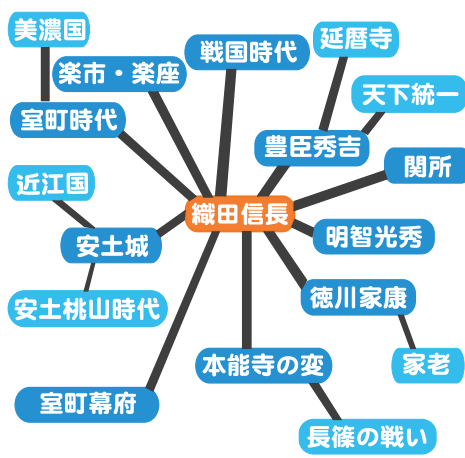
研究は気候の変化を予測する上で、異常気象対策などに役立てる。文科省の「気候変動リスク情報創生プログラム」の一環。筑波大学では気象庁気象研究所

など5機関と協力し、地域ごとの気候の変化を詳細に評価する技術の開発を目指している。

日比野研究員は「この結果が、地球温暖化を抑止するための研究のきっかけになってほしい」と話している。

「関連語マップ」運用開始

単語の関連度を図で表示



「マップ」の一例(学研キッズネットより作成)

計算知能・マルチメディア研究室所属の佐藤裕也さん(知機2年)と学研教育出版は、単語と単語の関連度を分かりやすく表示する学習支援システム「関連語マップ」を共同開発し、2013年11月からインターネットサイト「学研キッズネット」で運用が開始された。このシステムは誰でも無料で利用できる。

「関連語マップ」は、例えば「織田信長」と検索すると、画面の中心に表示された「織田信長」の語を囲むように「安土城」や「本能寺の変」などの関連語句が表示される。それぞれの関連語は「織田信長」と太い線で結ばれる。一方、「安土城」の関連語である「安土桃山時代」という語は、「安土城」と細い線で結ばれる。

基となるデータは学研教育出版が持つ歴史や理科、国語などの学習辞書・事典の約2万項目で、入力した単語の関連語を算出し、単語間の関連度合いを基にして表示する。関連度合いの基準は佐藤さんらが開発した独自の計算式(アルゴリズム)によって割り出される。

佐藤さんはこのシステムの基となる計算式を作成した河内沙織さん(平成24年度シス情科卒業)の研究を引き継いだ。佐藤さんが所属する研究室の延原肇准教授(シス情系)は「実際に使用した児童からは『単語同士のつながりが分かりやすい』と、高評価を得た」と話した。

学研教育出版と共同で

薬物防止で世界をリードへ フェアプレーの精神根付かせる

日本アンチ・ドーピング機構と協定締結

筑波大学は昨年11月28日、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携及び協力に関する協定を締結した。JADAが大学と協定を結ぶのは初。両者は①教育の推進と人材育成の調査・共同研究の推進②相互交流と国際

連携……などを通して、禁止薬物の使用防止に関して世界を先導していきたい方針だ。

協定の中で特徴的なのは教育面。筑波大の附属小学校から大学院まで、全ての教育課程でアンチ・ドーピングに関する教育を取り入れる。

スポーツに関わらない人にも、公正さや真摯な取り組みに通ずる「フェアプレーの精神」を理解してもらい、スポーツ界のみならず一般社会に通じるアンチ・ドーピングの概念に気付かせることが狙いだ。

また、日本では禁止薬物使用者は少ないものの、総合感覚薬の使用などによる「うっかりドーピング」が目立っている。禁止薬物など、ドーピング防止のため協力していた。今回の協定

医学類定員増

来年度から9人を増員 医師不足解消に期待

筑波大学は昨年12月20日、平成26年度個別学力検査(前期日程)などで医学部医学科の定員を増員する計画を進めている。平成26年度は、筑波大のほか弘前大学で5名、秋田大学で2名、神戸大学で2名、茨城県の「地域枠」で、同卒の募集人員は13人から22人に増員される。茨城県の人口10万人あたりの医師数は全国ワースト2位で、今回の増員は地域医療の再生に貢献するものとして期待されている。

地域枠は①県内の高等学校を卒業または卒業見込み②保護者が県内に居住する……などが主な応募条件。採用者には奨学金が貸与され、卒業後に県が指定する医療機関で9年間勤務すると返還は免除される。

文科省は近年の医師不足に対応するため、平成31年度まで全国の国公私立大学で医学部の定員を増員する計画を進めている。平成26年度は、筑波大のほか弘前大学で5名、秋田大学で2名、神戸大学で2名、茨城県の「地域枠」で、同卒の募集人員は13人から22人に増員される。茨城県の人口10万人あたりの医師数は全国ワースト2位で、今回の増員は地域医療の再生に貢献するものとして期待されている。

50才代男性教授 セクハラ行為で 諭旨解雇

筑波大学は昨年12月6日、50才代の男性教授が女子学生に対し、セクハラ行為に及んだとして諭旨解雇処分にしたと発表した。同教授は同年11月30日に退職した。

筑波大によると、同教授は一昨年の夏、学外の飲食店で女子学生と飲酒した後、自らが予約したホテルに女子学生を連れ込んだ。しかし、女子学生がホテルから逃げ出したため、性行為には至らなかったといふ。

問題は一昨年11月に女子学生が筑波大のハラスメント

第8回「科学の芽」賞 小・中・高校生が研究を発表 ユニークな視点に大人も感心

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永一郎記念第8回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月21日、筑波大学大会館ホールで行われた。受賞者

小・中・高校生を対象に、科学や自然現象についての優れた研究を募集する朝永一郎記念第8回「科学の芽」賞の表彰式が昨年12月21日、筑波大学大会館ホールで行われた。受賞者



永田学長から表彰状を受け取る中学生

学学長)の功績をたたえ、若い世代の科学への関心を高めることを目的に、筑波大が主催している。今回は2050件の応募があり、小学生部門で8件、中学生部門で9件、高校生部門3件が受賞した。

小学生部門で2年連続の受賞となった熊ノ郷健人さん(大阪教育大学附属池田小学校4年)は、クモの巣(蜘蛛の巣)の構造を調べ、湿度が高い日にはクモの巣の数が減ることを突き止めた。実際にクモの巣を採取し、手触りや糸の強さについても調査したため「触りたくないクモの巣に毎日手で触って性質を調べなければならず、大変だった」と苦労を話した。

表彰式に訪れた第1回「科学の芽」賞受賞者の木村あかねさんは「大人にはない面白い発想の研究ばかり。子どものひらめきに学ぶことが多くあり、筑波大の研究者全員に来てほしい内容だった」と話した。

一方、永田恭介学長は「率直な疑問を持って、謎を解き明かしたいという強い気持ちを感じた。疑問が解けて、科学の芽が花になることに期待したい」と話した。

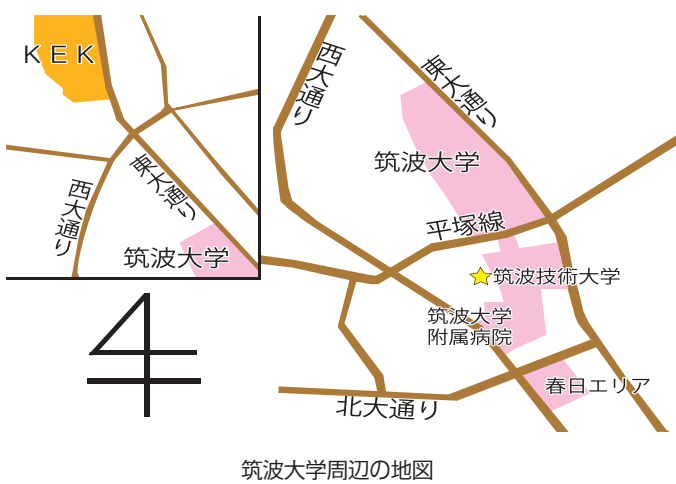
街灯設置の現状を探る

筑波大学周辺で夜、街灯が整備されていない路上での女子学生に対するわいせつ事件(暴行を含む性的嫌がらせ)が続いている。「街灯がない暗い道は怖い」「二重われたら」と思うと気が気でない……。本紙の取材に答える学生たちの思いに、大学や自治体、自治会などはどう応じようとしているのか。つくば市では一部の研究機関が、独自に敷地に明かりをつけるなど自衛策をとっている。各機関の対策や今後の計画を探った。(本紙取材班・鈴木拓也) 人文学類2年、平嶋健人 社会学類2年

KEKの取り組み

街灯が整備されていない問題で、独自に整備を行った機関がある。つくば市大

穂にある高エネルギー加速器研究機構(KEK)だ。KEKは加速器を用いて物質の成り立ちなどを研究する大学共同利用機関法人だが、付近で不審者が出没する事件が発生したのを機に敷地の東大通り沿いに街灯



筑波大学周辺の地図

4

つくば市の取り組み

街灯の不足に対して、つくば市はどのように対応しているのだろうか。同市の防犯灯を管轄する危機管理課の長卓良課長と小川高徳交通防犯係長に聞いた。

■設置困難な場所も 長課長によると、つくば市では夜間の犯罪や事故を未然に防ぐため、防犯灯を年間300〜400本設置して

1万8000以上がある。それではなぜ、筑波大学周辺で街灯などが無整備な暗い場所があり、そこで「路上わいせつ」の犯罪が多発するの



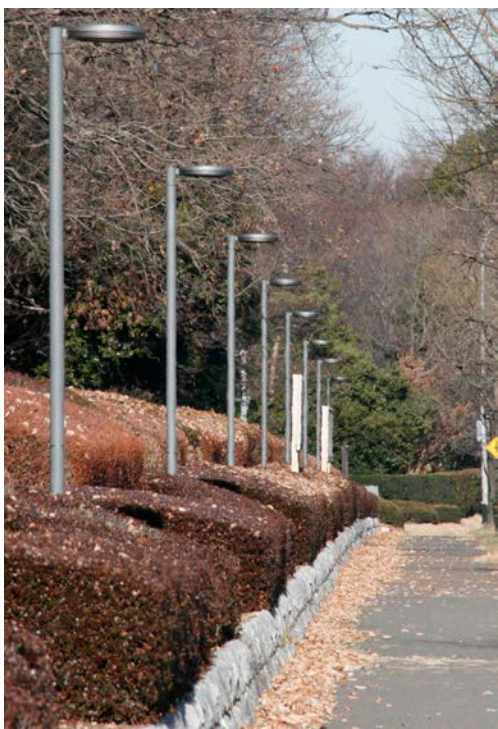
つくばに街灯を

■自助努力で38本設置 これに対しKEKは「職員のみならず、外来研究者が深夜出歩いたりすることも多く、早急な対応が必要」と判断。09年、自らの予算から敷地内に15本のLED式街灯を設置した。KEK

■関係機関への要望ならず KEKの総務課によると、KEKの周辺はもとより暗く、2006年7月、関係

が不審者に遭遇する事件が発生。また、夜間帰宅時の歩行者や自転車通勤者の安全確保に対する職員の要望もあり、隣接する東大通り沿いの歩道に街灯設置を求め、関係機関に提出した。だが、①街灯の設置には優先順位がある②予算に限りがある……など

要望実現せず独自に設置



KEKが敷地内に独自に設置した街灯

「大学周辺を明るくして」

また09年には、大学付近で暴行事件や交通事故が多発したことから、県の土木事務所に平塚線沿いの街灯設置と植え込みの

送られる年間200以上の要望書も、同課では全てに對し現地調査をした上で、設置を検討している。

長課長は「すぐには設置できない場所もあり、防犯灯を設置している」と語る。また、暗い危険な場所を見つけた場合は「地域自治会を通じて要望を出してほしい」と話している。

■防犯灯などの設置状況 防犯灯などの設置場所を決める基準となるのは、各自治会や研究機関などから

筑波大の取り組み

大学も県、市に要望 筑波大学の取り組みはどうか。今後の計画を

■自助努力 筑波大学によると、街灯の設置を県や市に要望して

■県や市の協力が必要 県や市の協力が重要になる

設置の要望は絶えない。学生生活の問題を話し合うクラス連絡会や、2年に一度実施される「学生生活実態調査」で毎回、「街灯」の求めがあるほか、全学学類・専門学群代表者会議が企画したつくば市長との懇談会でも街灯に関する質問があがった。

3年前には、平塚線沿いの歩道が暗いことを受け、歩道のすぐ脇を通る学内の遊歩道2カ所を舗装し街灯を増設。学生が暗い平塚線沿いの歩道ではなく、明るい学内遊歩道を利用できるようにした。また05年と08年にも、春日エリアの北大通り沿いの歩道に街灯設置を求め、その際は東大通り沿いの一部に街灯が設置された。

一方、街灯設置には予算の制約があるため、学内に生い茂る樹木を伐採し、できるだけ明さを保とうとする取り組みも続けられている。また、各宿舎周辺では、

学生生活の問題を話し合うクラス連絡会や、2年に一度実施される「学生生活実態調査」で毎回、「街灯」の求めがあるほか、全学学類・専門学群代表者会議が企画したつくば市長との懇談会でも街灯に関する質問があがった。

これに対し、学生生活課のある職員は「大学から1歩外へ出る暗い、というのが現状だが、大学の周囲を明るくするために、県や市の協力が重要になる」と指摘。「市は大学周辺をもっと明るくするべきだ」と話している。また、



東條三郎 自治会の取り組み

街灯の管理は自治会が担っている。自治会が電球が切れたり、センサーが故障した時に、自分たちの判断で業者を呼んで工事をしてもらっている。工事費用は自治会が1時的に立て替えるが、

地域住民の交流があれば、情報共有できる。住民が清掃などの地域活動に関心を持ってくれば、地域住民の親交が深まり、防犯情報も共有できて、治安も良くなる。

街灯の不足に対して、地域自治会はどのように対応しているのだろうか。つくば市春日4丁目自治会の東條三郎会長(66)に話を聞いた。

自治会では、自治会費や電気料金を市の負担で、自治会からはお金を出していない。周囲の暗さについてどう感じているか。

自治会では、自治会費や電気料金を市の負担で、自治会からはお金を出していない。周囲の暗さについてどう感じているか。

自治会では、自治会費や電気料金を市の負担で、自治会からはお金を出していない。周囲の暗さについてどう感じているか。

「技術大前は迂回してほしい」

板を設置する予定だという。今後、防犯灯などの設置が難しい場所については

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

決定の基準となるのは、各自治会や研究機関などから

筑波大学附属病院 「けやき棟」に学生の作品展示



病院内に展示された学生の作品

アートを通じて患者と交流

筑波大学芸術専門学群とアート「芽」が昨年12月から5月30日まで附属病院けやき棟で開かれている。「病院アート」は入院患者やその家族が快適に過ごせる空間作りを目指すとして2005年に発足。同学群の学生による作品展示、患者対象のワークショップなどを企画している。今回の

展覧会では学生による写真や書道などの他、過去の活動記録も展示されている。活動記録では、小中大地さん(金成22年度芸術修了)が09年に行った企画「ゴッホの写真も展示された際の写真も展示された」の「ゴッホ」は「いたすら好きの妖精」という意味の言葉で、この企画では小中さん扮する「ゴッホ」博士が、病院内で身の周りのモノを擬人化した小さな人形(ゴブリン)を制作。そこを通りかかった患者ら院内の人々とのコミュニケーションを図った。

同病院では1月29日、けやき棟1階のけやきプラザでシンポジウム「病院のアートを育てるために」も予定されている。

展覧会では学生による写真や書道などの他、過去の活動記録も展示されている。活動記録では、小中大地さん(金成22年度芸術修了)が09年に行った企画「ゴッホの写真も展示された」の「ゴッホ」は「いたすら好きの妖精」という意味の言葉で、この企画では小中さん扮する「ゴッホ」博士が、病院内で身の周りのモノを擬人化した小さな人形(ゴブリン)を制作。そこを通りかかった患者ら院内の人々とのコミュニケーションを図った。

展覧会では学生による写真や書道などの他、過去の活動記録も展示されている。活動記録では、小中大地さん(金成22年度芸術修了)が09年に行った企画「ゴッホの写真も展示された」の「ゴッホ」は「いたすら好きの妖精」という意味の言葉で、この企画では小中さん扮する「ゴッホ」博士が、病院内で身の周りのモノを擬人化した小さな人形(ゴブリン)を制作。そこを通りかかった患者ら院内の人々とのコミュニケーションを図った。

院生の作品が多数出展

筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻博士後期課程の学生の作品を展示する「第10回DC展」が昨年12月25日から今年1月5日にかけて茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開催された。会場には地域の住民や筑波大の関係者が訪れた。

同展は、学生の研究成果を公開する取り組みの一環として2004年から開催されている。今回は、同専攻の学生15人が出品した46作品を展示。広々とした会場には、彫刻や絵画、書など多様な作品が陳列された。学生の中には、個展を開くなど「日ごろから作家として活動している者もあり、来場者は完成度の高い作品をじっくりと鑑賞していた。



アカペラを披露する団員

さまざまに曲を披露 約180人が耳を傾ける

アカペラサークル「Doo-wop」が昨年12月28日、つくばカピオつくば市竹園で開催され、約180人の観客が団員の歌声に耳を傾けた。

今回の公演のテーマは「あたたかい冬の音色」。団員らは赤やオレンジなど暖かみを感じさせる電飾・パンフレットや、舞台上にテーブルとチェアセットを置いて家庭的な雰囲気を作り観客をもてなした。サークル内のオーディションで選ばれた5グループが舞台上に上がり、歌声を披露した。

アカペラは楽器による伴奏がない、声だけで構成される合唱形態。今回のライブではフィンランドや日本などさまざまなジャンルの曲が歌われた。観客は盛り上がる曲には手拍子をし、しっとりとした曲には目を閉じて耳をすませるなどしてライブを楽しんだ。

この公演のプロデュースを務めた國分佳央里さん(数学2年)は「準備は大変なことがたくさんあったが、ライブが大成しに終わり、今はその苦労を忘れてしまおうという気持ちで語った。(12面に関連写真)

混声合唱団第38回定期演奏会

3年生最後の舞台 涙する観客の姿も



ノバホールで行われた定期演奏会

筑波大学混声合唱団第38回定期演奏会が昨年12月15日、ノバホール(つくば市吾妻)で行われた。会場には開場前から多くの人が集まり、団員の美しい歌声に耳を傾けた。

演奏会は筑波大の学生歌「常陸野の」から始まった。前半のステージでは谷川俊太郎作詩の「生きる」など代表的な合唱曲を披露。曲ごとに声の出し方や表現に変化をつけ、臨場感あふれる舞台を作り出した。

会場を訪れた同団の卒業生は「素晴らしい演奏会だった。声に一体感があり、曲の良さを最大限に引き出した」と感想を語った。団長の山室由美さん(人文3年)は「引退までであったという間だった。多くの人に演奏を楽しんでいただけてうれしく」と話した。



白井健郎

理系でありながら数人が多くいるのが生物・農学系である。かく言う農学部卒の私も学部時代に物理の選択必修単位「波動」を一つ落としたため、とある研究所の就職最終面接で当時の研究所長(日本物理界の重鎮の先生だった)に、「君は物理が苦手かね?」とチクリと言われた。生物・化学系の研究室への就職面接だったので完全に盲点だったのだが、今考えても冷や汗ものである。その私が現在、大学教員をしている。「だから物理(数学、化学)がで

きなくても大丈夫」という話ではない。生物・農学系に数学、物理、化学が不要なわけではない。そもそも「理系科目」というものは、中には使わない知識もあるし、知らなくとも何とかなることもあるのだが、知っていれば良いことは日常生活でも多々あるのである。例えば食品添加物や放射性物質など、知らない(感覚的に)何となく怖い」といふことも、知っていれば「本言」に怖いもの、「心配する程のこと」とはないものを区別できることになる。区別できるようになれば、発露心をおぼる発言も冷静に判断できるし、「安全」といふ科学的裏付けもなくなる商品(大抵は科学的裏付けがない)に、どうやって

大きなものか? 背負の巻き方に理由がある? シマウマや熱帯魚の模様はどのようにできるのか? これも実は単純な法則、数式で説明できることが読むと分かる。目からうろこが落ち「なるほど!」と膝を打ちたくなる内容である。生き物の形には数学が隠れている。単純な法則、数式を見て「美しい!」と思うのは物理の専売特許ではないのだ。身近にいる生き物の形を見て、ぜひ感動してほしい。なお、気さくな文体で書かれていてほとんど数式も出てこないの、文系の方でも安心して読める。

ちなみに生き物の模様様が読めるのは波動で説明できるという。私が大時代代に落とした単位も「波動」だった。ちゃんと勉強しておけば、もっと早く気が付いた(かも知れない)のに。(秀潤社)

(生環系・准教授)

数式から見る生き物の形 波紋と螺旋とフィボナッチ

近藤滋著

は、身の回りで日々目にする何気ないことの中にある「面白さ」に気が付き、感動できることだと思ふ。理系科目を学習することで得られる「なかなか気が付かないような面白さ」に気が付く能力は人生を豊かに楽しむことには欠かせない。今回紹介する本「波紋と螺旋とフィボナッチ」は、生き物の形、模様などのように見えるのかを説明している本である。鳥は堅い甲羅を持っているのに、どうやって

大きなものか? 背負の巻き方に理由がある? シマウマや熱帯魚の模様はどのようにできるのか? これも実は単純な法則、数式で説明できることが読むと分かる。目からうろこが落ち「なるほど!」と膝を打ちたくなる内容である。生き物の形には数学が隠れている。単純な法則、数式を見て「美しい!」と思うのは物理の専売特許ではないのだ。身近にいる生き物の形を見て、ぜひ感動してほしい。なお、気さくな文体で書かれていてほとんど数式も出てこないの、文系の方でも安心して読める。

ちなみに生き物の模様様が読めるのは波動で説明できるという。私が大時代代に落とした単位も「波動」だった。ちゃんと勉強しておけば、もっと早く気が付いた(かも知れない)のに。(秀潤社)

(生環系・准教授)

大きなものか? 背負の巻き方に理由がある? シマウマや熱帯魚の模様はどのようにできるのか? これも実は単純な法則、数式で説明できることが読むと分かる。目からうろこが落ち「なるほど!」と膝を打ちたくなる内容である。生き物の形には数学が隠れている。単純な法則、数式を見て「美しい!」と思うのは物理の専売特許ではないのだ。身近にいる生き物の形を見て、ぜひ感動してほしい。なお、気さくな文体で書かれていてほとんど数式も出てこないの、文系の方でも安心して読める。

ちなみに生き物の模様様が読めるのは波動で説明できるという。私が大時代代に落とした単位も「波動」だった。ちゃんと勉強しておけば、もっと早く気が付いた(かも知れない)のに。(秀潤社)

(生環系・准教授)

筑波大学 出版会

「サービスサイエンスとはじめる」数理モデルとデータ分析によるイノベーション(高木英明 編著) 工業製品のものづくりからサービスの「ことづくり」に転換している今日のサービス産業で、生産性向上とイノベーションをリードするのがサービスサイエンスである。本書では、サービスシステムにおける顧客と従業員の満足度評価などの基礎となる、数理モデルとデータ分析の方法を応用例と共に独習できる。編者は筑波大システム情報系長。A5版、並製、約300頁。価格は未定。

「Climate System Study: Global monsoon perspectives」(Hiroaki UEDA) 本書は同出版会既刊の『気候システム論』グローバルモンスーンから読み解く気候変動の英文版。一部の図版と参考文献には最新情報を用いている。最新の地球温暖化予測とその解法などをデータ交えて詳説する。執筆者は筑波大生命環境系教授。A5版変形、上製、約240頁。価格は未定。

付があるように装っている(に無駄金を使わずに済む)。もちろん研究だって、よりスマートに、よりエレガントに、よりスピーディーに進めることができるようになる。しかしもっと大事なことは、身の回りで日々目にする何気ないことの中にある「面白さ」に気が付き、感動できることだと思ふ。理系科目を学習することで得られる「なかなか気が付かないような面白さ」に気が付く能力は人生を豊かに楽しむことには欠かせない。今回紹介する本「波紋と螺旋とフィボナッチ」は、生き物の形、模様などのように見えるのかを説明している本である。鳥は堅い甲羅を持っているのに、どうやって

大きなものか? 背負の巻き方に理由がある? シマウマや熱帯魚の模様はどのようにできるのか? これも実は単純な法則、数式で説明できることが読むと分かる。目からうろこが落ち「なるほど!」と膝を打ちたくなる内容である。生き物の形には数学が隠れている。単純な法則、数式を見て「美しい!」と思うのは物理の専売特許ではないのだ。身近にいる生き物の形を見て、ぜひ感動してほしい。なお、気さくな文体で書かれていてほとんど数式も出てこないの、文系の方でも安心して読める。

ちなみに生き物の模様様が読めるのは波動で説明できるという。私が大時代代に落とした単位も「波動」だった。ちゃんと勉強しておけば、もっと早く気が付いた(かも知れない)のに。(秀潤社)

(生環系・准教授)

GPA 自転車登録制 激動の1年を追う 二期制 学園祭日変更

二期制移行や新たな成績評価方法の導入。自転車・バイク登録制度の発足や学園祭日の変更……。今年度は筑波大学にとって新たな試みの多い一年だった。開学40周年に筑波大はどのように変わったのだろうか。「激動の一年」を振り返ると共に、来年度以降の筑波大の動向を探った。(望月麗二比較文化学類、新田萌夏、林健太郎II社会学類、添島香苗II生物学類)

新学長就任

授(医学医療系)が就任し、任期は2年間。「国際性の日常化」を旗印に、永田学長は「地球規模課題の解決に向けた知の創造と、これを牽引するグローバル



昨年の記者会見で決意表明を語る永田学長

人材育成」の推進を進めていく。昨年10月1日の開学40周年記念式典には、江崎玲於奈元学長など著名人の招待客や、学内関係者ら約750人が参加。これまでの筑波大の活動を学内外に広報する機会ともなった。また併せて開催したT Suku ba Global Science Weekは、ヒューマンバイオリソープログラムと医学医療系が主催したセミナーで、化学や生命科学の観点から筑波大のグローバル人材育成に大きな影響を与えた。

2020年の東京五輪開催について永田学長は、体育、スポーツ医学、障障科

「国際性の日常化」を目指す

二期制

学期制度を導入することは大規模な改革だったが、新たな学年層は順調に浸透しているようだ。

移行へ混乱なく

開学以来初めて導入された二期制。その現状を佐藤慶彦教育企画室長(生環系・教授)、教育推進課の関副課長に聞いた。関副課長は「二期制導入による大きな混乱はななく、思いのほか円滑に進めることができた」と話す。全学群で同時に二期制の導入は、学内での更なる議論が必要になるかもしれない。

学などの分野で筑波大も貢献していくことを表明。また筑波大の国際化を目指し、来年度、文部科学省が公募する「スーパーグローバル大学」への準備を進めていくとしている。今年度から発足した留学支援などをを行うグローバル・コミュニケーション機構についても、来年度4月1日から国際部や留学生センターなどと再構成を予定しており、「国際性の日常化」を目指していく。

施設整備

平成20年度に始まった筑波キャンパス内の建物の耐震工事が、今年度も進んでいる。この影響で2B棟1階及び2階の工事に伴い、事主に進むのは、鉄筋の支柱で建物を補強する工事だ。東日本大震災で中央体育館以外に各建物に大きな損傷が出ていないため、この工事と共に、教室の間取りの変更や空調の整備を進めてきた。筑波大学の場

合、耐震工事で各棟が立ち入り禁止となり、教員らの研究室が移動されたり、授業の教室が変更されたが、今のところ学内の施設利用に関する苦情はほぼないという。

2013年度の筑波大学

4月 新学長就任

春学期授業開始

10月 秋学期授業開始

自転車・バイク登録制度

40+101周年記念式典

11月 学園祭

耐震化工事 今後3年続く

耐震工事が行われている人文・社会学系棟



耐震工事が行われている人文・社会学系棟

震工事が続く。来年度は2B棟の3階と4階や人文・社会学系棟の残りの棟などで工事が行われる予定だ。また、医学エリアに「国際統合睡眠医学研究棟」が、春日エリアには「高細精医療イノベーション棟」がそれぞれ建設される。環境に配慮した大学を目指すため太陽光発電も徐々に取り入れる予定で、今年度は本部棟や5C棟の屋上に太陽光パネルを設置した。施設部の松崎憲隆部長は「施設の利用で(学生などに)不便をかけるが、将来的により良い大学施設にするために、協力してほしい」と話している。

自転車・バイク登録制度

そのうち、学生の登録台数は約1万1000台だ。学生総数が約1万6000人であることを考えると、登録率を考えると、登録率は約68%と、登録は順調だと言えそうだ。

登録は順調、マナーがカギ

昨年10月1日から、学内で自転車・バイクを利用する全ての学生・職員を対象に、自転車・バイク登録制度が導入された。筑波大学では開学以来、自転車の駐輪マナーが問題となってきたが、この制度の導入によりどんな変化があったのだろうか。

制度導入に先立ち、学生や職員は昨年9月30日までに大学に所有する自転車・バイクの登録を行い、ICタグを受け取る必要があった。昨年12月中旬時点で、登録台数は約1万3500台。



自転車の迷惑駐輪が後を絶たない3A棟前

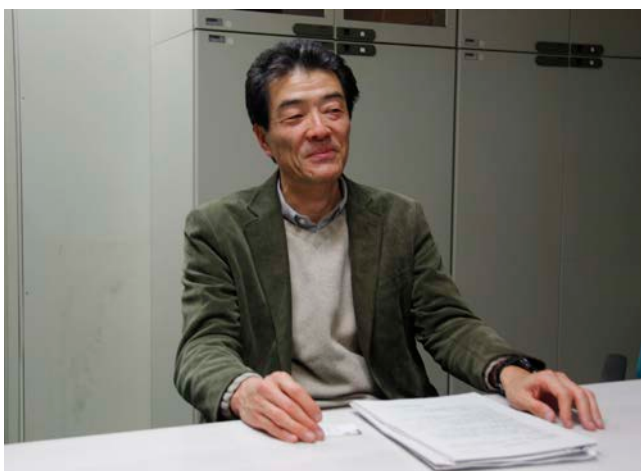
現在、学生生活課の職員らが毎日一人体制で学内を巡回。迷惑駐輪を発見する「まずは未登録者への対応が重要」という。ICタグは今後、当事者の負担が増える一方で、値上げの可能性も高い。在学生は昨年の制度開始までに登録すれば、ICタグが無料で発行されたが、それ以降の登録や来年度以降の新入生の登録には1000円が必要だ。大学側は平成27年度にもICタグの値上げを検討しているが、これは、同年度から登録制度への国からの補助金が打ち切られるため、値上げ分は、学内の駐輪状況を見る職員らの人件費に充てられる予定だ。

開学40周年を迎えた 平成25年度

GPA制度

筑波大学がGPA (Grade Point Average) 制度を導入してから約10カ月。GPAはA+, A, B, C, Dの成績を上位から4, 3, 2, 1, 0ポイントのGP (Grade Point) で評価し全科目の平均点を算出する成績評価方法。導入の狙いは、学生が自分の学習到達度を理解するためにある。学類ごとのGPAの平均も開示されるため、学生が自分の成績を客観的に理解できる。またこれに促し、学生がより良い成績に向け、学習時間を増やすことが期

相対評価との誤解も



GPA制度について説明する佐藤室長

待される。GPA制度を担う佐藤室長は「GPA制度の周知がまだ十分で、学生や教員らが進捗の関与を誤解して」と話した。GPA制度の周知がまだ十分で、学生や教員らが進捗の関与を誤解して

いるケースがあるように」と話した。今年度から成績評価の厳格化を更に推進するため、各学類及び共通科目等運営部会長が「成績評価分布の目標」を定めた。これはA+やAに占める受講生の割合の目安を示した。教員はこの分布目標を考慮した上で、学生レポートやテストを課し、成績の評価をする。

「学生や教員らに相対評価との誤解が広がっている。GPAは相対評価ではない」と話した。GPAは相対評価ではない

「学生や教員らに相対評価との誤解が広がっている。GPAは相対評価ではない」と話した。GPAは相対評価ではない

「学生や教員らに相対評価との誤解が広がっている。GPAは相対評価ではない」と話した。GPAは相対評価ではない

「学生や教員らに相対評価との誤解が広がっている。GPAは相対評価ではない」と話した。GPAは相対評価ではない

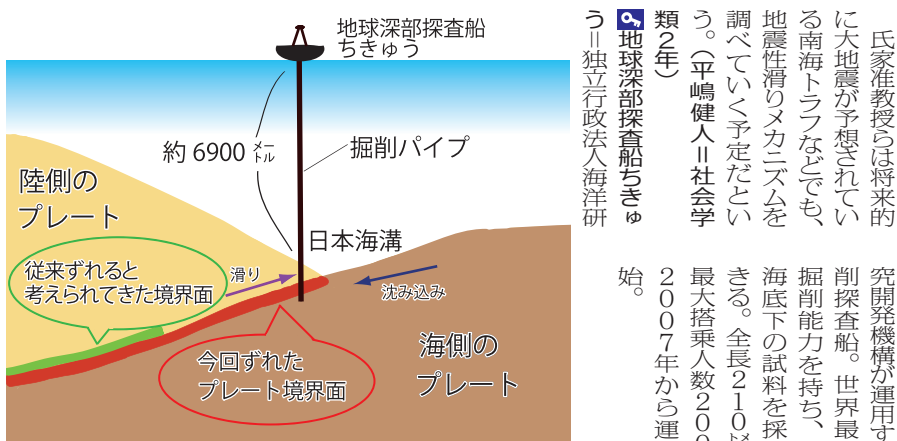
「学生や教員らに相対評価との誤解が広がっている。GPAは相対評価ではない」と話した。GPAは相対評価ではない

HELLO! 先端科学

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震について、プレート(岩板)境界にある滑りやすい粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

3.11大地震 大規模地震のメカニズム解明 プレート境界の粘土層が原因

「プレート境界地震」は、海側のプレートの沈み込みに伴って陸側のプレートが引きずりこまれることでたまってきたひずみが限界に達し、陸側のプレートが元に戻ろうとする際に起こる。従来、地震で大きく滑るのには、プレート境界深部である浅部(水深約6900m)が、海底面下約820mから断層試料を採取することに成功した。試料を分析した結果、大地震で大規模な滑りが起きたプレート境界浅部の断層にはスメクタイトと呼ばれる水を通じやすく、巨大津波が起こ



「ちきゅう」の掘削調査

やりたいことに挑戦して

ついでに生活は、大きな夢の入口でした。私は芸術専門学群に在籍中の3年生の時に、漫画家としてデビューしました。当時の大学をやめて漫画一本に絞るかどうか迷ったのですが、せっかく入った筑波大学を卒業したいという思いもあり、結果「ちきゅう」で決断をしました。

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

視点

今年度行われた改革のうち、最も大きな影響力をもったのは「二学期制」への移行だろう。移行に伴う問題は生じたが、筑波独自の「実質六学期制」はまだ活用方法を模索している段階だ。特に春CMJジュールなどは今年度の現行の値上げも検討されているので、未登録の学生は早急に各支援室で登録手続きを済ませたい。

耐震工事などの施設整備も今後3年は続く見通し。建物工事に伴う立ち入り禁止期間や利用制限がある中で、学生や教職員はこまめに掲示物に注意する必要がある。(望月曜二比較文化学類2年)

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

「ちきゅう」の掘削調査の結果、プレート境界の粘土層が地震の規模を拡大させたことを筑波大学の氏家恒太郎准教授(生環系)らの研究グループが突き止めた。1万9000人以上の死者行方不明者を出した大地震のメカニズムは、これまで不明な点が多かったが、同准教授らの研究結果はその解明に貢献するものとして注目されている。この研究成果は昨年12月6日、米国の科学雑誌「Science」に掲載された。

筑波自然図鑑



撮影地=平砂学生宿舎

そんな中「ライフ」という作品を描いている時に読者の方から「あなたの漫画を読み、励まされた。生きようと思えました」というお手紙を頂き、思わず涙がこぼれました。がむしゃらにやっていた自分の作品を見つめ、励まされた。生きようと思えました。漫画を通して自分と読者の方との想いがつながった瞬間でした。一人じゃないんだよと言ってもらえたような気がしました。

私の大学時代を支えてくれたのは、ずっとあこがれていた「漫画家になりたい」「大学で美術を学びたい」という夢へ

初の準優勝果たす 今後の活躍に期待

決勝戦は惜敗

第22回全日本大学女子サッカー選手権大会

第22回全日本大学女子サッカー選手権大会の決勝が1月19日、味の素フィールド西が丘(東京都北区)で行われ、筑波大学はなでしこリーグにも参加している強豪・吉備国際大学と対戦、延長戦の末1-2で惜しくも敗れた。筑波大が決勝戦まで進出したのは初の快挙となる。(林健太郎)社会学類1年、森脇慎二(同1年)



多くの筑波大生からの声援が送られる中、初の決勝進出を果たした筑波大の選手は躍動した。序盤は筑波大のペース。前半4分、筑波大はゴールからおよそ30歳の位置でフリーキックを獲得すると、瀬戸口(体専4年)が正確なキックでチャンスを出した。これは相手DF陣に阻まれるが、多くの選手がゴール前に飛び込み、積極性を見せた。



素早いドリブルで相手をかわす瀬戸口

だが左右から多彩な攻撃を仕掛ける吉備国際大が徐々に試合の主導権を握り始める。筑波大はシュートを体で止めるなど必死に守っていたが、前半34分、コーナーキックを頭で合わせられ、ついに先制を許す。その後も多くのシュートを打たれたが、GKの國香(体専4年)を中心に守り抜き、前半を0-1で終えた。

しかし延長戦は地方に勝る吉備国際大が攻め続ける。延長前半アディショナルタイム、ゴール右から落ちてきて決められ万事休す。惜しくも日本一は逃したものの、筑波大としては初の準優勝に、試合後には目に涙を浮かべながらも、応援していた筑波大生と笑顔で喜びを分かち合った。

試合後、三輪由衣監督は「今自分たちが出せる最大限の実力は発揮できなかったと思う。選手にお疲れ様と言いたい」と話した。(12面に関連写真)

「筑波大学は本場に粘り強いチームでした」。試合後のインタビュー。優勝した吉備国際大学の監督・選手から筑波大に賞賛の声が送られた。

多くの選手が攻撃に絡むまで試合のビデオを見て分析したこともあった。才能豊かな選手をスカウトできる私立大とは違い、筑波大は一般人が入ってこざる選手がほとんどで、個々に卓越した技術があるわけではない。それでも好成績を残せたのは、「個人の技術は、戦術で補うという意識をチーム全体で共有できている」(三輪由衣監督)ためだ。

大会中もミーティングを行い、問題点を修正した。準決勝で、縦パス一本で裏を狙う攻撃が目立っていたことを反省。決勝ではパスをつないで

2年生の時。インターハイでフルセットでデビューが続き白熱の試合の末、負けてしまったのだ。悔しかった。だがこの悔しさをバネに、3年生の時、念願の優勝を果たした。

筑波大を選んだのは、女子バレー部の中西康己監督(体育系・准教授)に声をかけてもらったから。強豪・青山学院大学に進学したい気持ちもあったが「強いチームに行くよりも、自分を必要としてくれるチームで戦いたい」と考えた。昨年度の関東大学バレーボールリーグ戦では、春季リーグこそベンチで先輩のプレーを見守ったが、秋季リーグでは早くもレギュラーの座に。セッターとして活躍した。昨年はタリスマスも返上して2泊3日の合宿に行くなどバレー漬けの日々だ。

男女共にベスト16 早稲田大に敗北 2連覇逃す



男子は2回戦から出場し、初戦、続く3回戦と快勝。4回戦に駒を進めた。4回戦では今大会で優勝した早稲田大と対戦。第1セットを20-25で奪われると、第2セットからは「相手のサーブに崩されないように」(秋山監督)と体育系助教(フォーメーション)を変え、2セットを25-15と大差をつけて取り返し、第3セットも25-21で逆転する。だが第4セットを落とすとして迎えた最終セットでは、エース出未由(体専4年)が足をつるアクシデントに見舞われた。出未由はその後本来のプレーはできず、早稲田大に反撃を許して敗北した。

男子は2回戦から出場し、初戦、続く3回戦と快勝。4回戦に駒を進めた。4回戦では今大会で優勝した早稲田大と対戦。第1セットを20-25で奪われると、第2セットからは「相手のサーブに崩されないように」(秋山監督)と体育系助教(フォーメーション)を変え、2セットを25-15と大差をつけて取り返し、第3セットも25-21で逆転する。だが第4セットを落とすとして迎えた最終セットでは、エース出未由(体専4年)が足をつるアクシデントに見舞われた。出未由はその後本来のプレーはできず、早稲田大に反撃を許して敗北した。



華麗にスパイクを決める筑波大

秋山監督は「いい試合内容だったが、負けてしまった。来季はインカレ優勝を目指して、一戦、一戦を大事に戦っていききたい」と語った。

女子は1回戦の道都大学に圧勝すると、続く東北福祉大学戦でも第1、3セットをそれぞれ27-25、25-21、25-13で取り、ストレート勝ちした。しかし、塵塵

体育大学との3回戦では、第1セットを先取したが、第2、4セットを18-25、21-25、16-25で奪われ敗退した。(12面に関連写真)

観戦記

「筑波大学は本場に粘り強いチームでした」。試合後のインタビュー。優勝した吉備国際大学の監督・選手から筑波大に賞賛の声が送られた。

多くの選手が攻撃に絡むまで試合のビデオを見て分析したこともあった。才能豊かな選手をスカウトできる私立大とは違い、筑波大は一般人が入ってこざる選手がほとんどで、個々に卓越した技術があるわけではない。それでも好成績を残せたのは、「個人の技術は、戦術で補うという意識をチーム全体で共有できている」(三輪由衣監督)ためだ。

大会中もミーティングを行い、問題点を修正した。準決勝で、縦パス一本で裏を狙う攻撃が目立っていたことを反省。決勝ではパスをつないで

2年生の時。インターハイでフルセットでデビューが続き白熱の試合の末、負けてしまったのだ。悔しかった。だがこの悔しさをバネに、3年生の時、念願の優勝を果たした。

筑波大を選んだのは、女子バレー部の中西康己監督(体育系・准教授)に声をかけてもらったから。強豪・青山学院大学に進学したい気持ちもあったが「強いチームに行くよりも、自分を必要としてくれるチームで戦いたい」と考えた。昨年度の関東大学バレーボールリーグ戦では、春季リーグこそベンチで先輩のプレーを見守ったが、秋季リーグでは早くもレギュラーの座に。セッターとして活躍した。昨年はタリスマスも返上して2泊3日の合宿に行くなどバレー漬けの日々だ。

筑波大は前半から果敢にゴール前に攻め込む。前半26分、9本のパスを素早くつなぎ、ゴール前でパスを受けたDF車屋紳太郎(同3年)が相手GKをかわしシュートするが、相手DFの好アロクに防がれチャンスをもたないで、前半を0-0で折り返す。

だが後半4分、東海学園大にパスでゴール前にボールを運ばれると、そこからシュートを打たれて先制を許し、その後再三の好機を生かせず敗退した。



昨年の東日本インカレで4位入賞を果たすなど、躍進が続く筑波大学女子バレー部で、1年生ながらセッターを務める選手がいる。高校時代はキャプテンとして神奈川県川崎市立橋高校をインターハイ優勝まで導いた塚田しおり(体専1年)だ。

バレーを始めたのは母親の影響。0才の頃から母のプレーするママさんバレーを見ていたという。小学生になると地域のクラブチームに所属し、彼女のプレーや身長を見た監督からセッターに指名された。セッター

中学、高校ではキャプテンを務め、練習の雰囲気づくりや声掛けも率先して行った。転機は高校

た。「勝つことが楽しいからバレーをしている。最後のインターハイでは勝ちにこだわった。」

1年生ながらセッターを務める

必要とされる存在を目指して

2回戦敗退でベスト16 決定力不足に苦しむ

第62回全日本大学サッカー選手権大会

筑波大は前半から果敢にゴール前に攻め込む。前半26分、9本のパスを素早くつなぎ、ゴール前でパスを受けたDF車屋紳太郎(同3年)が相手GKをかわしシュートするが、相手DFの好アロクに防がれチャンスをもたないで、前半を0-0で折り返す。

だが後半4分、東海学園大にパスでゴール前にボールを運ばれると、そこからシュートを打たれて先制を許し、その後再三の好機を生かせず敗退した。

必要とされる存在を目指して

昨年の東日本インカレで4位入賞を果たすなど、躍進が続く筑波大学女子バレー部で、1年生ながらセッターを務める選手がいる。高校時代はキャプテンとして神奈川県川崎市立橋高校をインターハイ優勝まで導いた塚田しおり(体専1年)だ。

バレーを始めたのは母親の影響。0才の頃から母のプレーするママさんバレーを見ていたという。小学生になると地域のクラブチームに所属し、彼女のプレーや身長を見た監督からセッターに指名された。セッター

中学、高校ではキャプテンを務め、練習の雰囲気づくりや声掛けも率先して行った。転機は高校

た。「勝つことが楽しいからバレーをしている。最後のインターハイでは勝ちにこだわった。」

1年生ながらセッターを務める

必要とされる存在を目指して



1年生ながらセッターを務める

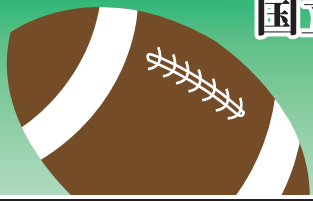
塚田しおり(体専1年)

筑波大を選んだのは、女子バレー部の中西康己監督(体育系・准教授)に声をかけてもらったから。強豪・青山学院大学に進学したい気持ちもあったが「強いチームに行くよりも、自分を必要としてくれるチームで戦いたい」と考えた。昨年度の関東大学バレーボールリーグ戦では、春季リーグこそベンチで先輩のプレーを見守ったが、秋季リーグでは早くもレギュラーの座に。セッターとして活躍した。昨年はタリスマスも返上して2泊3日の合宿に行くなどバレー漬けの日々だ。

高校時代、全日本ジュニア候補に名前が挙がったこともあり、実力は十分。だが、「バレーは大学で辞めたい」という。将来の夢は体育の先生。「中学時代の恩師のよくな、厳しくもあるが、日常生活の相談にも乗ってくれる熱血教師を目指したい」。バレーへの姿勢にも、体育の先生という目標にも、一貫している。「誰かに必要とされる存在でありたい」という強い思いだ。一度コートに立てば、その瞳は勝利だけを見つめる。「今の目標は関東リーグ戦での優勝。最終的には全日本インカレの優勝も狙っている」。今や女子バレー部にとっても、なくてはならない存在。勝利に対する真摯な努力で、今後も存在感を存分に発揮していくだろう。(姉崎信二心理学科1年)

国立大学初の大学選手権 決勝進出から1年……

筑波ラグビーを振り返る



【国立競技場で富田慎二日本語・日本文学類と二日日本語・日本文学類2年】「勝てる試合だった。主将の内田啓介(体専4年)は試合をこう振り返った。昨年決勝で敗れた筑波大学。後半は風上に立ち、後半開始から中盤まで積極的に攻め込み、早稲田大の陣地でボール回しが続いた。17分、トライ直前でペナルティを犯し、ハイフラインまで戻されるが、それでも早稲田大に陣地に侵入することを許さなかった。焦りもブレッシャーもなかった(内田)と筑波大のペースのまま試合は進んだ。

「粘り」見せられず



相手の隙をついて攻める筑波大

しかし、25分にペナルティを取られ、ボールの主導権が早稲田大に移ると流れは一転する。大きく右に展開され、筑波大は早稲田大に自陣への進入を許した。ゴールライン直前での早稲田大のペナルティを機に立て直しを図るが、29分にスクラムをゴールラインまで押し込まれ、8-15と離される。選手たちは陣陣を組み「もう一度集中していくぞ」との声が記者席にまで聞こえてきた。その直後の31分に山沢拓也(同一)がペナルティゴールを決め、11-15と追いつけた。だが、持ち前の「粘り」が試合終了まで続くことはなかった。「一点だけに集中し過ぎて他のところがあつそかになった」(福岡堅樹)「情科2年」。一瞬の隙



陣を組むフィフティーン

を突かれ、34分、38分に連続でトライを許し、試合を決められた。内田は「最後は集中力と基本的なことの差で負けて歯がゆい。(優勝は)後輩たちに託したい」と語った。福岡 トライできず 日本代表でも活躍する俊足のエース・福岡堅樹(情科2年)がボールを持つと、スタンドが一気に沸いた。だが、この試合では最後までトライを奪うことができなかった。福岡対策と

記者の目

「昨年の全国大学ラグビー選手権大会。筑波大学は国立大学初の準決勝進出を果たし、初めて国立競技場に立った。そして昨年、初の決勝進出。「日本一まであと一歩」。今シーズンはこんな周囲の期待も高まった状態で、スタートした。

ちもぼつぜんとしていたように見えた。

しかし次の試合となった関東大学対抗戦、早稲田大学戦(9月29日)ではそのミスが修正されて

「筑波らしさ」で勝利目指す

悔しさ糧に下級生に期待

昨年9月15日の関東大学対抗戦・慶應大学戦は「シーズン本番」の開戦だった。だが筑波大はミスを連発。集中力が欠けた試合を見て、先行きが不安になった。選手たち

出が決まるといふ大事な試合だったが、筑波大は「筑波らしさ」の象徴である守備を徹底。流通経済大をトライに抑えた一方で、各選手がそれ

ぞれの持ち味を生かし5トライで快勝した。「不安もあったが、準備の段階から全員が本気で勝利を目指した。その結果今まで一番楽しんで勝つことができた」。内田啓

会準決勝に登録された選手半数以上が、下級生だ。4年生の無念、悔しさを経験した選手たちが、来季のラグビー部を引っ張ってくれるだろう。

準決勝には多くの観客が国立競技場に集まり、観客席では筑波大のスクールカラーであるフューチャーブルーの旗も振られた。「プレー中は聞かなくても」止まった瞬間に観客の声援が聞こえて、力になる。福岡堅樹が話すように、観客の声援が選手たちの活躍の原動力となるのは間違いない。

次こそは、どの願いと共に関東大学対抗戦の慶應フェンスへの意識は本当に高いものを求めている。だが筑波は、引き締まったロースコアな試合が多い。



古川拓生 監督

「どんな1年でしたか。(4-7月の)関東大学春季大会では、相手が「筑波」の名前に押され(気迫負け)していた部分があった。たかもしれない。また(チームの)完成度が低いのは、どの試合も「勝ち」で出た。負けは学出たのに勝っているからいいか、というスタートになってしまった。(その間、表面化したのが9月の関東大学対抗戦の慶應フェンスへの意識は本当に高いものを求めている。だが筑波は、引き締まったロースコアな試合が多い。

だがこれは今年のチームが変わる一つの転機にもなった。ミスに対して厳しく行こうと学生らが言い始めるきっかけとなったから、今も日本一にたどり着けなかったが、大学は成長の場。(負けをどのようにならに生かすか)学生の捉え方が大事だと思う。「筑波らしさ」とは、(キーワードは)チームとしての支え合い。プレーで言つとタックルとサポートを絶対大事にしようと言っている。自分の仕事を終えた時に仲間をどう支えに行くか。また、ディフェンスへの意識は本当に高いものを求めている。だが筑波は、引き締まったロースコアな試合が多い。



自慢の俊足でトライを狙う福岡

福岡堅樹(情科2年)は、福岡出身。福岡堅樹は昨年の準優勝、今年の4強入りに貢献した主力選手だ。それだけなく、日本代表選

昨年、決勝戦で敗れた帝京大学との再戦はならなかったものの、今年、全国大学ラグビー選手権大会で3年連続の4強入りを果たした筑波大学。下級生ながら、その躍進を支えた2人の注目選手を紹介する。(富田慎二日本語・日本文学類1年)

手としても活躍している。今後のラグビー界を背負っていきただけの実力を持っている。トライを求められるWTB(右ウィング)を担う福岡の強みは走力だ。日本代表ヘッドコーチに

「マークはしていたが、山沢にスキを与えてしまった」。試合後、早稲田大の後藤慎和監督が語ったように実力は折り紙つき。1年生ながら、チームの司令塔として筑波大学の4強入りに貢献した有望選手だ。ポジションはゲームをコントロールするSO(スタンドオフ)。持ち味はスピードとキックで、視野も広く、とても

も先制のゴールを決めるなど活躍した。その目も認められるほどの俊足でトライを狙う。日本代表として参加したワールドズ杯(昨年6月)では、一気に相手への関合いを詰め、鋭いタックルでピンチを救うなど、世界の舞台でも結果を残している。

1月2日の早稲田大戦では本来の動きはできなかった。それでも、試合後には前を見据えていた。「これからはチームを引っ張っていきたい」。エースとしての自覚を持ち、筑波大学を悲願の日本一へ導く中心となるのは間違いない。

器用な選手だ。投げてよし、蹴ってよし、走って良しの三拍子そろったフリースタイルは、チームの中でも存在感を見せている。初スタメンは昨年9月29日、関東大学対抗戦の早稲田大戦。この試合でも先制のゴールを決めた山沢。安定したプレーでもっとチームに貢献できるような選手になりたい。注目のルーキーがチームの要となり、更なる躍進を支えていく。

相手のタックルをかわす山沢

本紙に感謝状贈呈



感謝状を受け取る平嶋記者(右)

筑波大学生の防犯意識向上などを求めるジャーナリズム活動が評価され、つくば中央署から1月、筑波大学新聞に感謝状が贈呈された。

同紙は大学周辺で発生し、ながら、一般紙が大きく取り上げていない犯罪の多さに着目。学生や大学職員ら、地域への情報提供を行うおと、一昨年に取材班が発足させ、同署やつくば市消防本部、大学周辺の組織、住民などへの取材を続けてきた。

学生の防犯意識向上に貢献

その結果、一昨年12月発行の304号では、大学周辺で多発する不審火事件について、原因の一端が学生が屋外に放置した洗濯物や新聞などの可燃物にあることを報じた。また、昨年4月発行の306号ではオートロックマンションでの「忍び込み」と呼ばれる窃盗事件の多発を特報。被害者の学生の多くが玄関のオートロックを通過し、自室の鍵をかけていなかったことに注意を促した。

このほか、昨年11月発行の310号では大学周辺の街灯が整備されていない路上などで夜、女子大生を狙ったわいせつ事件が前年の2倍に急増したと特報。これを機に「つくばは街灯を」のキャンペーンも展開している。一連のキャン

留学生の目



キム・ホンシク

つくばに来てから3年がたった。あつという間の3年間は、留学する前の自分と比べると有意義な時間を過ごせたと思う。今でも明確な目標を持っていないとは言えないが、以前の目標のない生活をしていたころよりは、少し成長したとも思う。本稿では自分の留学

生活3年間にについて述べたい。

入学する前にも筑波大学で日本語や数学の勉強をしていたため、入学した2011年4月にもあまりワクワク感がなかった自分は、単位を取るだけの生活をした。中学・高校でオーケストラをした経験があったので音楽のサークルにも入ろうとは思ったが、韓国に

とに後悔はない。誠実に講義を聞いたおかげか3年次になるまで成績は悪くはなかった。

国に戻らなければならぬ。もちろん、その2年間が完全に無駄になると思われないが、それでも



勉強優先した大学生活

無事に早期卒業をするための条件を満たした。韓国出身である私には兵役も考えていたため、入学準備しながら、卒業論文

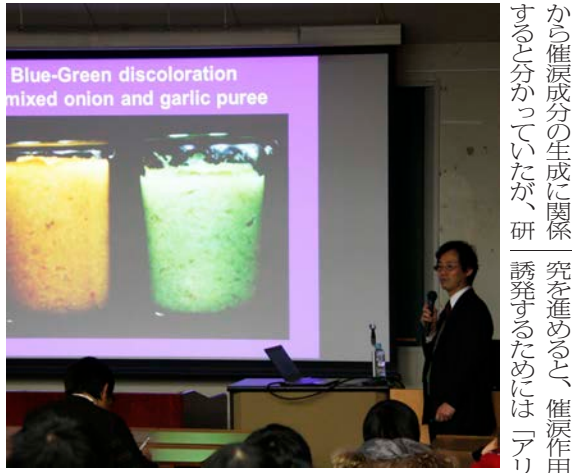
若い時の2年間は大きいと思ひ、大学院への進学も考えていたため、入学準備しながら、卒業論文

を書くための準備もした。運が良かったのか、昨年の9月に東京大学から合格通知が来た。韓国の知人の司法試験合格や会計士合格などの話を聞くと、自分もより精進しなければならぬと思うようになる。筑波大の利点は他の学類の授業を自由に取れることであるが、他の人より1年早く卒業するため、卒業単位を取るところに一杯になったことは少しもったいない。2年間の兵役の間に今の自分に不足している勉強をして、修士課程でより深く勉強していきたいと思う。(社会工学類・原文も日本語) 田中 芸術専門学群3年

イグノーベル賞受賞者が講演

研究の楽しさ伝える

筑波大学生命環境科学研究所から催涙成分の生成に関係する第4回イグノーベル賞受賞者キム・ホンシク氏が1月16日、筑波大2B棟で行われた。セミナーでは筑波大の2期生で、2013年に「タマネギの催涙成分合成酵素の発見」でイグノーベル賞(化学賞)を受賞した今井真介さん(ハウス食品グループ)が講演。会場には約150人の参加者が訪れた。



タマネギの変色の実験について説明する今井さん

から催涙成分の生成に関係する成分が分かったが、研究を進めると、催涙作用を抑制する成分も発見された。今井さんは今回の受賞の教訓として「自分たちだからこそ気をつけることに気づくかどうかが大事。身近なところから研究の題材はある」と話し、研究の楽しさを伝えた。

SMK株式会社代表取締役講演会

企業のグローバル化を語る 「新興国相手に企業戦略を」

SMK株式会社代表取締役の池田晴光社長の講演会が昨年12月4日、筑波大学総合研究棟Aで行われた。同社は「コネクタやタッチパネルなどを主な商品としており、生産や販売の拠点を各国に展開。特に中国やマレーシアを中心

に、現地の文化に特化した生産体制を確立している。講演では、同社の商品生産高の約7割をアジアが占めていることから、企業がグローバル化に対応するためには海外に生産拠点を置き、地域に密着した活動を行う必要があると説明。池田社長は「アジアへの進出は、他の企業と戦うために必要不可欠。新興国を相手にできる企業戦略を考えなければならぬ」と話し、自らの企業理念である「変化に対応する力」を訴えた。講演会を訪れたジャーナリストの一人、筑波大短期留学生の「海外戦略の話を聞いてよかった。今後経済を学ぶ上で生かしていきたい」と語った。

アントラーズ山村と交流

立ち見が出る大盛況

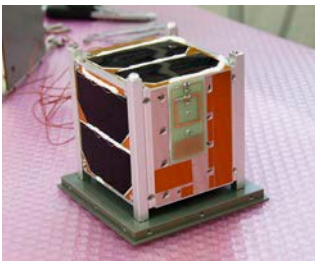
筑波大学附属中央図書館エントランスホールで昨年12月16日から行われていた「出張・カシマサッカーミュージアム」のイベントの一環として鹿島アントラーズ山村和也選手とのトークショー＆サイン会が12月26日、中央図書館集客室で行われた。これは昨年8月に筑波大と鹿島アントラーズが学術的提携に関する協定書に調印したことを記念して開催されたイベント。会場には約70人の参加者が訪れ、立ち見の見物者が出るほどの大盛況となった。



笑顔で話す山村選手

は、山村選手が流通経済大学時代に抱いていた筑波大への憧れ、立ち見の見物者が出るほどの大盛況となった。後半の質疑応答の時間には、大学時代の思い出や今後の展望についての質問が寄せられ、山村選手は終始和やかな様子で参加者との交流を楽しんだ。

人工衛星「結」内覧会開催



2月に打ち上げへ

工学学域によって設計された学生中心のプロジェクト「結」が開発した。宇宙では衛星内部の温度や、バッテリーの状態などのデータをモジュールで地球に送信する。小型のトランシーバーとアンテナがあれば、誰でも衛星からの信号を受信できるのが特徴だ。「結」の開発には設計から電子回路の製作、通信技術の構築などほぼ全行程に学生が

携わっており、学外でも話題を呼んでいる。「結」はJAXAの衛星と共に打ち上げられる。内覧会では「結」の実物や、永田学長が激励の言葉をかけるなどして学生と交流を深めた。プロジェクトチームの野中淳司さん(エシス4年)は「完成まで、地味な作業に励んできた。ようやく日の目を見ることができた」と感慨深げに語った。(12面に関連写真)

筑波民各位!



追越・一の矢で廃止へ 業者の経営悪化が原因

来年度から、筑波大学の「廃止されるほか、平砂共 170円から180円に値上げし、営業時間が短縮される。共用棟浴場は1974年に平砂地区、75年に追越地区、77年に一の矢地区に設置され、宿舎に住む学生が主に利用。経営は民間業者に委託されていた。だが平成21年度に宿舎にコインシャワーが整備されたことで利用者は激減し、業者の経営は悪化。昨年9月業者側が浴場経営からの撤退を正式に求めた。

学生生活課は、宿舎近隣に銭湯などの施設が無いことなどから継続を求めているが結局追越・一の矢地区の浴場の廃止などが決まった。学生生活課は対応策として追越宿舎の学生に平砂共用棟浴場の利用を促す他、一の矢宿舎居住棟や一の矢生活センターのコインシャワーの整備を進めることを検討している。

学生生活課の大手昇一専門職員は「浴場廃止は残念だが、継続運営される平砂

筑波大学方面のバス 深夜便を3便増発



東京駅からの深夜高速バスと同型のバス

社会工学類生が考案 最終便は1時15分発に

東京駅発の筑波大学中央行き深夜高速バス便が1月14日から、つくばセンター到着後、大学方面へのバスとして利用できるようになった。これまで同便は終点まで途中で乗車できなかったが、センターでの乗車が可能になり、22時40分発だったセンター発の大学方面行きバス最終便が事実上、1時15分発となった。筑波大社会工学類の学生が授業の一環として提案、実現したもので、新たな大学方面行きの深夜の交通手段になりそうだ。

新たにつくばセンターで乗れるのは23時25分(東京駅発22時20分)、0時5分(同23時)、1時15分(同0時10分)到着の各便。センター到着後、大学方面への乗車が可能になり、現在の22時40分発の定期運行バス最終便以降、大学方面へは3便の増発となる。

センター乗車後、降車できるのは「筑波大学病院」と「学生会館」・終点の「筑波大学中央」・運賃は深夜バス料金で、センターから各降車場までそれぞれ300円、400円、

500円だが、学内路線バス定期券を利用すると一律260円の割引となる。東京駅から筑波大学までの高速バスは関東鉄道とJRバス関東が運行するが、今回実施されるのは関東鉄道運行の便だ。

これまでも学生などの間で「深夜につくばセンターから大学方面への交通手段がなく不便だ」という声が上がっていたが、「都市計画実習」(谷口守教授)・シス情系の神保裕美さん(社工3年)らのグループが深夜高速バスの有効活用を提案。アンケートで空席状況などを調べた上、昨年6月に関東鉄道に提案した。同グループの皆川貴弘さん(社工3年)は「深夜や早朝に空席状況などのアンケートを行ったが、(関東鉄道に)前向きに検討してもらった」と話した。一方、関東鉄道の自動車部営業課は「深夜に大学方面へ向かう交通手段としてぜひ利用してほしい」と話している。

学内循環バス定期券値上げ 予定より増額へ 消費税増税の影響

筑波大学筑波キャンパス内を走行する循環バス定期券の利用料について、来年度からの値上げに関する説明会が昨年12月から1月にかけ開催された。その中で、以前発表された値上げ後の予定額8400円より、利用料が更に高くなることになった。今年4月からの消費税引き上げに伴うものだという。

1月10日に学内で開かれた第2回説明会での東照雄副学長、高岡利嗣学生生活課長らの説明によると、バスを運営する関東鉄道株式会社は消費税増税で4月からの値上げを計画。それに伴い、循環バス定期券の利用料金の値上げも確定するという。上げ幅はまた分からないが、副学長らはできるだけ早く公表する意向を示した。

バス定期券の現在の正規料金は年間1万8700円。だが、筑波大が関東鉄道から定期券を6000円一括購入し、学内では8400円で販売してきた。また学生については負担を減らすため筑波大が更にこの半額を拠出、4200円で販売している。

だが来年度からは、その負担総額約3000万円を、授業料免除のための予算や、奨学金「つくばスカラシップ」に回す予定で、これを受けて当初大学側は今後の学生向けの料金が8400円になると公表していた。

シャワーが整備されたことで利用者は激減し、業者の経営は悪化。昨年9月業者側が浴場経営からの撤退を正式に求めた。

学生生活課は、宿舎近隣に銭湯などの施設が無いことなどから継続を求めているが結局追越・一の矢地区の浴場の廃止などが決まった。学生生活課は対応策として追越宿舎の学生に平砂共用棟浴場の利用を促す他、一の矢宿舎居住棟や一の矢生活センターのコインシャワーの整備を進めることを検討している。

学生生活課の大手昇一専門職員は「浴場廃止は残念だが、継続運営される平砂



廃止が決まった一の矢共用棟浴場

茶道同好会

茶道同好会は毎週月・水曜日活動日だ。月曜日は部員だけで稽古に取り組み、水曜日は外部から講師を招く。年に数回のお茶会では、和服で学外の人ももてなす。

彼らが茶を点てるのは、茶を客に振る舞うという動作の中に、人を思いやりや、自然を愛する心を見出すためだ。作法は稽古前



茶の道 tanbō

荘厳な迫りが目をひく筑波大学の開学記念館。その一室からは、今日も茶を点てる音が響く。松の木を用いた雅な茶室には、乱れぬ正座で茶の稽古に励む茶道同好会の部員がいる。

茶道同好会は毎週月・水曜日が活動日だ。月曜日は部員だけで稽古に取り組み、水曜日は外部から講師を招く。年に数回のお茶会では、和服で学外の人ももてなす。

彼らが茶を点てるのは、茶を客に振る舞うという動作の中に、人を思いやりや、自然を愛する心を見出すためだ。作法は稽古前



外交問題について語る水野元大使

「外交―その表舞台と裏舞台」 元外交官が安全保障を解説 国際問題を深く考える

筑波大学「人間の安全保障」水野元大使は、水野達 使を招いた講演会が昨年12月11日に筑波大学総合研究棟Aで開かれた。「外交―その表舞台と裏舞台」と題された講演会には、学生や教職員ら約40人が訪れた。水野元大使は北京での勤務経験を踏まえ、近年の日中関係の悪化に際し、尖閣問題について重点的に解説。中国の公文書や、人民日報の過去紙などの資料を用いながら歴史的・国際法的にも尖閣諸島が日本固有の領土であることを示した。また中国共産党の権力闘争事情や、防空識別圏の設定、国際司法裁判所の管轄権についても説明した。質疑応答の時間では、中国人留学生が資料の歴史的



道の奥深さに触れる

から始まる。同好会が属する専ら家では最初にまじり正座で先生や他の部員にあいさつ。さらに「道を修めなほ励みつつも初心を忘れぬように」「他人をあなごする事なくいつまでも足がしびれてしまった。事前に描いていた優雅なイメージとは全く違った。だが、部員らの姿勢は変わることがないまま、疲れた様子も全く見せなかった。

「正座は一時間以上続けても平気。また、稽古のときは相手を思いやり、姿勢を崩さないよう心がけている」と部員の宮部祥代さん(社工1年)は笑顔で話す。

先生と真剣に稽古に励みつつも、時折、和気あいあいと語りながら楽しんで稽古に向き合う部員の姿が印象的だった。会長の松尾寛子さん(芸専3年)は「お茶で一服し心地よい休憩をするために同好会へと足を運ぶ」と話す。

茶を振る舞うための様々な作法。そこには日本の文化が詰まっていた。茶道同好会に「雅な世界があった。(林健太郎)社会学類1年」

背景について質問し、教員も加わった議論となった。水野元大使は最後に、筑波大生に向けて「歴史的研究に基づき、実証的な外交研究をしてもらいたい」と語った。

来場した学生の藤木輝さん(国総1年)は「実務者の視点から話を聞いて良かった。国際問題を深く考えるきっかけとなり、有意義な講演だった」と話した。同講座は、21世紀の諸課題に対し、制度や国境を超えて政策の提言やグローバル化に対応できる人材を育成することを目的としている。

Who's Who?

「つくばショートムービー」でグランプリ

高島瑛彦さん (情報創成4年)



第四学群の衣装で学内に登場する高島さん

主人公の男子学生は、2月14日に大規模なデモを起す。人質は女子学生、要求は「手作りのチョコレート」。バレンタインデーに自分だけチョコレートをもらえないことを恨む男子学生と、学内の秩序を守る特殊部隊「学生支援室」の攻防の行方は――。

主人公の男子学生は、2月14日に大規模なデモを起す。人質は女子学生、要求は「手作りのチョコレート」。バレンタインデーに自分だけチョコレートをもらえないことを恨む男子学生と、学内の秩序を守る特殊部隊「学生支援室」の攻防の行方は――。

ジャンクション」でも東映ビデオ賞を受賞するなど、各方面から高い評価を受けている。作品は一年生の時に受講していた映像制作の授業課題だった。「自身の経験をヒントに脚本を書いた」という。他の4人の受講生とチームを組んで映画制作をした。撮影には広大な敷地を誇る筑波キャンパスを活用し、役者は学内の劇団サークルに依頼。編集には独学で身につけたコンピュータグラフィックスの技術を使い、爆弾の爆発など派手な演出も試みた。同授業は芸術専門学群3・4年生向けだったが「REAL」は担当教員や受講生から高い評価を受け、その存在は学内外に知れ渡った。昨年は「つくば」に応募するために2カ月の追加撮影と再編集を行った。

映画制作に注ぐ情熱 サプライズで日常を楽しく

連続出場するなど映像制作に明け暮れる日々を送った。その情熱と実績を武器に、AC入試で筑波大に合格。情報メディア創成学類でメディアやプロダクションの勉強に励んだ。「REAL」の制作をきっかけに、高島さんは2年生で映像サークル「Xion-labor」を立ち上げた。活動は、映像広告から70分の長編ホラー映画の制作まで多岐にわたる。現在制作中の長編作品「終末」は、電車や映画館を貸し切った撮影やプロの俳優を起用した大作で、今年の春に公開予定だ。映画制作で学んだことは、人とのかわり方。撮影許可を得るためには地元の方と交渉する必要があるし、役者も知人の紹介がほとんど。たくさんの人の理解と支えが次の作品制作にもつながる。映画は決して一人で制作できるものではないと感じた。これまでの活動を振り返る。

その活動は映像制作にとどまらず、自ら主導する「第四学群」の活動は学内で大きな反響を呼んだ。旧学群制度で実際には存在しなかった第四学群は学生から「幻の学群」と呼ばれ、学生間でさまざまな冗談や「都市伝説」に登場する。高島さんはこの噂を基に、「REAL」に第四学群を秘密裏の部隊として登場させ、作品完成後はそこで使用した黒つめの衣装をまとい、仲間と学園祭などのイベントに参加している。「学校という日常に『ちょっとしたサプライズ』があったら毎日が楽しくなる。思いっきり始めた活動だというのが、今では学内に突如現れる黒くめ集団を「筑波大でしか会えないキャラクター」と楽しみにする学生も多い。

今は大学院への進学を検討。「卒業する前に、ぜひ続編『REAL』、WHIT EDAY』を制作したい」と話し、大学生活を最後まで謳歌したいと考える。一人の学生のユニークな発想と行動力は、筑波大の「楽しい明日」へと続く。(望月麗二比較文化学類2年)

らちわ話

★引退記者からひとこと★
▼「鬼デスク」とはかけ離れた私の元で、部員はのびのびと活動していきなりました。だからその良い紙面ができたのかな。ありたい。草食先輩から引き継いだトッパニスト(今命色の座は、任せたぞA崎！皆ありがと。がんばってね！ぼよ)▼入部して2年半、そして引退、あつという間だった。取材するたびに感じた緊張感や新しい出会いは大変な思い出になった。(P.9)

次号は
4月7日(月)
発行予定です

Doo-Wop ウィンターライブ



美しい歌声を響かせる団員

5面へ

全日本大学女子サッカー選手権大会



フリーキックを蹴る瀬戸口

8面へ

全日本インカレ

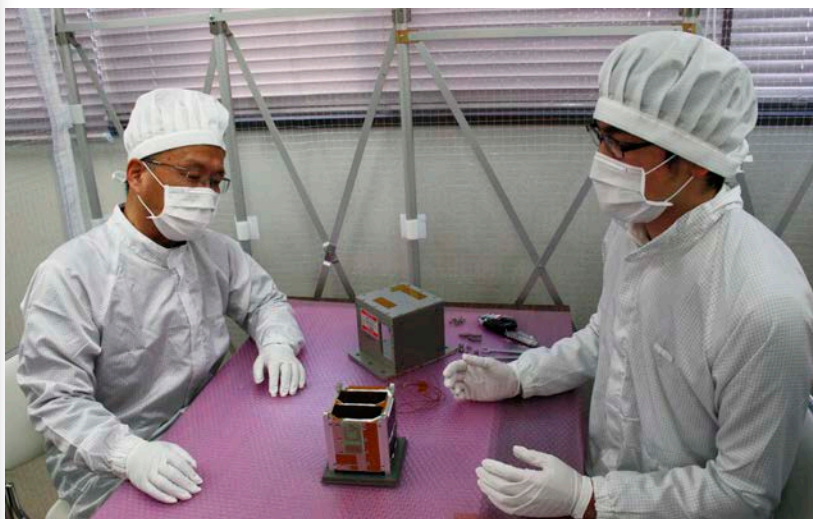


提供=男子バレー部

力強くアタックする筑波大

8面へ

人工衛星「結」内覧会



「結」について説明をする学生(右)

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活